

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201825
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホーム さんご
所在地	群馬県高崎市石原町4273-1 (電話) 027-324-3525
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	

【情報提供票より】(19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	2月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	9人	常勤	5人, 非常勤	4人, 常勤換算
				6.8

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いわた内科クリニック・吉井歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員一同は連携を密にしながら、ケアの質の向上に向けて前向きに取り組んでいる。利用者が自分のペースや能力に応じた役割を持って暮らせるよう、本人の立場にたつて様々な工夫や配慮をしている。面会や行事への参加、花壇の手入れ、ボランティア等で家族等の来訪回数も多い。運営推進会議を活かし、家族や地域住民等多くの参加メンバーから意見・要望を受けとり、改善に向けた具体的な取り組みに繋げている。地域との交流も積極的に進めており、今後更なるケアの質の向上が期待できるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	金銭管理の支援については、利用者の力量に応じて買い物代金や理容代金等支払う機会を作るよう支援している。相談・苦情窓口の明示については、要望及び苦情処理の窓口を文書に明示し、壁に掲示している。苦情受付箱を設置している。定期健康診断の支援については、4月に市の定期健康診断を利用者に受けてもらっており、課題は全て改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者と常勤職員4名で作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。ホームからの状況報告とともに、討議内容「身体拘束について」では、マニュアルを見ながらの討議の中で、玄関の施錠についての活発な意見交換が行われた。「防火について」では、車椅子で出られる非常口が無いので作ってほしいという要望が出された。要望を受け、図面を作成し非常口設置に向け取り組んでいる。メンバーの勧めで利用者が地域のいきいきサロンに参加したり、地域の祭りに参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	要望及び苦情処理の窓口を文書で明示し、管理者がホーム側の窓口になっている。苦情受付箱を設置したり、アンケートを取ったり、意見・要望・苦情等聞くように努めている。家族等の来訪も多く、気軽に話のできる雰囲気づくりに留意している。運営推進会議に出席している複数の家族等の意見・要望を受け、改善にむけた具体的な取り組みに繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣近所の人々とは日常的に挨拶を交わしており、花や野菜等頂くこともある。また緊急時の協力をお願いをしている。地元の祭りに参加したり、育成会の廃品回収に協力している。『さんごだより』を閲覧板で回してもらっている。利用者が地域のいきいきサロンに参加している。納涼祭をホーム開放日とし『さんごだより』やポスターで地域の人達に参加の呼びかけをした。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスの意義を確認し、職員会議で検討しながら事業所独自の理念をつくりあげた。	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、職員会議やカンファレンス等で理念を共に意識しながら話し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の班に入り、『さんごだより』を回覧してもらったり、廃品回収に協力している。隣近所の人々とは日常的に挨拶し、野菜等をいただいたり緊急時の協力をお願いしている。地元の祭りには寄付を持参し参加している。いきいきサロンに毎回参加している利用者もいる。AED説明会をホームで開催した。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえ、職員会議の中で話し合い、改善に向け取り組む努力をしているが、今回の自己評価は管理者と常勤職員4名で行っており、全職員で取り組んでいない。	<input type="checkbox"/>	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催されており、ホームからの報告、情報交換、出席者からの意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かし、改善に向け取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、ホームから市町村へ出向き、利用者の相談や事故報告、ボランティアの依頼等で担当者との連携を図っている。市の介護相談員の受け入れを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常の暮らしぶりや健康状態については、家族等の訪問時に話をしたり、電話で伝えている。行事の参加案内や自己評価票、『さんごだより』等も家族等に送付している。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族等に出席してもらい意見を聞いている。会議の報告やアンケートを家族等に送付している。訪問時には話しやすい雰囲気づくりに留意しており、家族等の意見、苦情は速やかに運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めている。代わる場合には、本人や家族等に口頭で説明している。新しい職員に対しては、ホーム長と一緒に働きながら指導し、引き継ぎがスムーズにできるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には職員が交代で受講している。法人外で実施されている実践者研修、身体拘束シンポジウム、介護支援専門員基礎研修、AED救命救急研修等に参加しており、内容については会議等で報告している。群馬県小規模多機能・グループホーム大会では職員が事例発表を行った。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、職員が大会に参加し事例発表をしている。交換研修をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族等にホームを見学してもらい、他の利用者との様子等確認しながら、笑顔とさりげない言葉かけで安心してもらえるように対応している。入居後も本人の思いの聞き取りに努め、家族等に相談や協力をしてもらいながら、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有している。日常生活場面で風習や季節の料理等教えてもらうことも多い。共に過ごし支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりの言葉や表情、行動等から本人の思いや意向等を把握するよう努めている。家族等からも情報を得るようにしており、職員間で話し合い、日々のケアに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活暦や本人・家族等からの要望を基に、毎月モニタリング、カンファレンスを行っている。全職員で話し合い、意見や気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に一度と状態の変化に応じて実施している。その都度話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、通院介助や健康診断の付き添い、買い物等の支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の意向を確認している。ホームの協力医をかかりつけ医にする場合は同意を得ている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。歯科医にも往診してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、看取りについての指針を示し、本人・家族等に説明を行い同意を得ている。本人や家族等ならびにかかりつけ医、訪問看護師、職員で必要に応じて随時話し合い、状況の変化に応じた支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう、日々のかかわりの中で十分注意確認し合っている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝坊する、ゆっくり食事を楽しむ等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながらその人らしく暮らせるよう、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器拭き等をしている利用者もあり、職員と利用者は同じテーブルを囲み、楽しく食事できるように支援している。十三夜、十五夜には利用者と職員と一緒に饅頭づくりをして楽しんだ。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「毎日入浴できます」と浴室入口に掲示し、利用者の体調や希望に応じて支援している。仲の良い人同士での入浴、浴槽にバラの花、ゆず等入れる、入浴を拒む人には職員と一緒に入り安心感を持ってもらう等、入浴を楽しめるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップ掃除、漬物づくり、食器拭き、おしぼり洗い等で力を発揮してもらったり、書道、買い物、外食ツアー、誕生会、運動会、クリスマス会、新年会、ボランティア(ギター演奏、踊り、太鼓、歌等)の来訪等で楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴、ボール遊び、周辺への散歩や買い物、季節の花見、外食ツアー等に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営推進会議で家族等から、利用者の安全や防犯の為日中玄関には鍵をかけた方がよいという要望があり、全家族にアンケートで意見を聞き、日中玄関に鍵をかけている。家族等にグループホームの意義を伝え、鍵をかけないケアの実践について理解してもらえるよう取り組んでいく。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ、自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で、出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけずに自由な暮らしを支援して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難誘導訓練を実施している。近所の家には緊急時の協力依頼をしている。災害時連絡網を作成しており、災害時には関連施設に避難できる。地元消防団に挨拶をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。利用者の希望のメニューを入れながら職員全員で献立づくりをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口には2つのベンチが設置され、花壇には季節の花が植えられている。花壇の手入れに家族の方達が来訪されていた。室内は明るく開放的であり、利用者が共同でつくられた作品や行事の写真等が壁に掲示してある。居間の一部に畳の間やソファ等が設置されており、利用者がゆったりと過ごせる空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥、応接セット、人形、書道の作品、カレンダー、アートフラワー、好きな歌手のポスター等馴染みのあるものや好みものが持ち込まれており、落ち着いた過ごせる場所となっているように見受けられた。		